

〔一〕(評論) 採点基準(合計≒50点)

問一 3点×4≒12点

(解答) a ハ b ロ c イ d ニ

問二 5点

(解答) ハ

問三 5点

(解答) やっぱりそ

問四 6点

(解答例)

A○3点

騒々しい音楽を、妻が息子と一緒に聴いていると知って、

B○3点

夫の自分には決して見せることのない妻のもう一つの顔があるような気がしたから。(6点)

▲文末は理由説明の形になっていない場合、▲1点減点。

■各加点要素の加点の条件

A 「騒々しい音楽を、妻が息子と一緒に聴いていると知って」(3点)

▲以下の3点に分け、その要素が欠ける場合1点ずつ減点する。

① 「騒々しい音楽を」 ▲1点減点。「音楽」は「ロック」でも○。✕ 「騒々しい」の説明が無ければ

✕

② 「妻が息子と一緒に聴いている」 ▲1点減点。

③ 「と知って」 ▲1点減点。

B 「夫の自分には決して見せることのない妻のもう一つの顔があるような気がした」 (3点)

- ▲以下の3点に分け、その要素が欠ける場合1点ずつ減点する。
- ① 「夫の自分には決して見せることのない」 ▲1点減点。 ※ただし、「夫」はなくても不問。
- ② 「妻のもう一つの顔がある」 ▲1点減点。
- ③ 「ような気がした」 ▲1点減点。

問五 6点

(解答例)

(S)

A ○3点

B ○3点

曲のタイトルが 平仮名の『たまらん坂』ではなく、漢字の『多摩蘭坂』だったから。(6点)

▲曲のタイトルが (S) が無い場合、全体から1点減点。「曲名が」でもよい。

▲文末は理由説明の形になっていない場合、▲1点減点。

■各加点要素の加点の条件

※『たまらん坂』と『多摩蘭坂』の対比がない場合は、AかBのどちらかの得点を認めない。

A 「平仮名の『たまらん坂』ではなく」 (3点)

B 「漢字の『多摩蘭坂』だった」 (3点)

問六 8点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

自分の気になっていた坂のことを歌っており、また、若い日々に特有の切実で甘美な味わいを歌った歌詞が、

C ○2点

時間の距りを置いて、若い頃とは別の感傷を抱かせるものだから。

▲文末は理由説明の形になっていない場合、▲1点減点。

■各加点要素の加点の条件

A 「自分の気になっていた坂のことを歌っており」 (3点)

△「息子の方により近い歳頃の若者が、あの坂の歌を作っているのが理由もわからず嬉しかった」の部分を理由としている場合は、△2点。

B 「若い日々」に特有の切実で甘美な味わいを歌った歌詞が」(3点)

3

▲① 「若い日々」に特有の」、② 「切実で」、③ 「甘美な味わい」のどれか要素を欠いている場合は、▲1点  
ずつ減点。

C 「若い頃とは別の感傷を抱かせる」(2点)

▲ 「若い頃とは別の」に当たる要素がない場合、▲減点1点。

○ 「別の感傷を抱かせる」など「若い頃」にあたる語が無くても、その前の文脈から「若い頃とは別」ということが詠み取れば○。

問七 4点×2＝8点

(解答) 八・ホ

〔二〕(評論) 採点基準(合計≒50点)

問一 2点×4≒8点

(解答) 1 摂理 2 機構 3 隆盛 4 隸属

問二 10点

(模範解答例)

A○1点 B○3点 C○3点

技術とは、自然の本質を理解した上で、それを人工的に模倣して、

D○3点

目的を達成するための手段を製作する営みであるとする見方。(58字)(10点)

■形式上の不備

- ・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…六〇字以内 **二九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

A「技術とは」(1点)

※「技術」についての見方であることを明確にしているものは要素A加点なし✖0点。

B「自然の本質を理解した上で」(3点)

※要素C以下の前提として「自然の本質の理解」が必要だということについて説明していないものは、要素B加点なし✖0点。

C「それを人工的に模倣して」(3点)

※要素Aとは、自然の「人工的な模倣」であることについて説明していないものは、要素C加点なし✖0点。  
○「自然現象を模倣して」など、「人工的」という語が無くても、それとわかる表現は可○とする。

D「目的を達成するための手段を製作する営みであるとする」(3点)

※アリストテレスの技術についての定義を説明していないものは、要素D加点なし✖0点。

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

技術を自然の模倣として捉えるとき、第一に優先されることは自然観察であり、

C ○3点

そこから得られたことを技術として用いるかどうかということは

D ○3点

後から考えることだということ。 (80字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現：理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「技術を自然の模倣として捉えるとき」(3点)

※ここでの前提が「技術を自然の模倣として捉える」ということについて説明していないものは要素A加点なし※0点。

B 「第一に優先されることは自然観察であり」(3点)

※要素Aを受けて、優先されることは「自然観察」であることを説明していないものは要素B加点なし※0点。

C 「そこから得られたことを技術として用いるかどうかということ」(3点)

※傍線部「おまけ」の内容を「自然観察によって得られた成果を技術に使うこと」であると説明していないものは要素C加点なし※0点。

※「自然観察の後に技術の実装がある」「自然観察そのものを後で使うかどうか」などは※。

D 「後から考えることだということ」(3点)

※傍線部「おまけ」を言い換えていないものは、要素D加点なし※0点。

○「副産物だ」「付加的なものだ」などで可○。

※「別問題だということ」「無関係に行える」などは※。

問四 12点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

自然はありのままに観察しても 説明できるものではないので

C ○3点

人間が実験という技術によって自然に働きかけ、

D ○3点

その結果を検証し説明しようとする考え方。 (70字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現：理由説明の結び「」から」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：七〇字以内 **三四字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「自然はありのままに観察しても」(3点)

※対比的に示されている「自然ファースト」のあり方について説明していないものは要素A加点なし ✕0点。

B 「説明できるものではないので」(3点)

※要素Aの「自然ファースト」では自然のあり方は説明できないということの説明していないものは要素B加点なし ✕0点。

C 「人間が実験という技術によって自然に働きかけ」(3点)

※「技術ファースト」のあり方について説明していないものは要素C加点なし ✕0点。

D 「その結果を検証し説明しようとする考え方」(3点)

※要素A・Bではできないことを要素Cによって可能にしようする考えであることを説明していないものは、要素D加点なし ✕0点。

問五 2点 2||4点

(解答) a 口 b ホ

問六 4点

(解答) イ

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) a う b つぼね c みす

「ポイント」

✖いずれも正解以外は✖。

a ✖ 「うれ」「うれい」 等

b ✖ 「きよく」 等

c ✖ 「みすだれ」「おんすだれ」「おす」 等

問二 3点×3＝9点

(解答) 甲 二 乙 イ 丙 口

問三 2点×4＝8点

(解答) i 口 ii へ iii ホ iv ハ

問四 2点×3＝6点

① (解答例) 2点

### 間違い

「ポイント」

※「僻事」の現代語訳。

○「まちがい・まちがえ・誤り」などでもよい。

✖「うそ・つらいこと」などは✖。

② (解答例) 2点

### 大勢

「ポイント」

※「あまた」の現代語訳

- 「おおせい・多く・数多く・たくさん・沢山」などでもよい。  
 △「多い」の意は言っているが、連用修飾語として説明されていない「多い・大勢の・たくさん」などは△1点。

③(解答例) 2点

そのまま

「ポイント」

- ※「やがて」の現代語訳  
 ○「そのついでに」でもよい。  
 △「すぐに・早々に」などは△1点。  
 ※「突然・そのうちに・やがて」などは✕。

問五 4点×2＝8点

A(解答例) 4点

A○2点

見ただけで書き留めずにそれきりにしてしまうことが

B○1点

物足りなく

C○1点

思われたので

「ポイント」

A「見ただけで書き留めずにそれきりにしてしまうことが」(2点)

※「見てのみやむが」の現代語訳

- ①「見ただけでそれきりにしてしまうことが・見るだけで終えるのも・見るだけでやめるのは」などの意があれば△1点。「見ただけで」は✕。  
 ②右の意がある上で、「書き留めない・書きつけない」などの意もあれば＋1点で○2点。

B「物足りなく」(1点)

※「飽かず」の現代語訳

- 「飽き足りなく・満足できず・不満に」などでもよい○。

C「思われたので」(1点)

※「おぼえしかば」の現代語訳

- ※「おぼゆ」は「自然と思われる」という自発の意の動詞。「思われる」の意がない場合は✕。「思ったので」などは不可✕。

- ✕「ので・ため・から」の意がない場合は✕。  
 ○過去(〓た)の意の有無は不問とする。



B (解答例) 4点

A ○3点

B ○1点

「為仲が行ってしまわないうちに付句をしよう」と よく考えずに、

「ポイント」

A 「為仲が行ってしまわないうちに付句をしよう」と (3点)

※ 「行かぬ先に」の現代語訳

① 「行かないうちに・立ち去る前に」などの意があれば【1点】。

② ①の意がある上で「為仲が」の意もあれば+1点。

③ ①の意がある上で「付句をしよう・句を詠もう・連歌をしよう」などの意もあれば+1点。

「句を詠もう」は「歌を詠もう」「上の句をつけよう」でもよしとする。

○ 「」の有無は不問。

B 「よく考えずに」(1点)

※ 「と思ひもあへず」の現代語訳

○ 「十分考えずに・考えきらないうちに・熟慮せず」などでもよい。

(この「よく考えずに」は、直前の「」内のことを「よく考えずに」ということではなく、直後の「日

影にも」の句を詠むに当たって「よく考えずに」詠んだということである。)

※ 単に「考えずに」などは✕。

※ 「思つて・思わないで・思うことができなくて・思えなくて・思い至らなくて」などは✕。

問六 6点×2＝12点

X 6点

(解答例)

A ○3点

B ○3点

少しづつ早く詠むことにより、「和歌の出来の悪さを隠そむ」として、「早く詠む」(37字)(6点)

■ 表記・字数

・ 字数指定 40字。字数が少ないことによる減点はしない。

・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。

・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「少しでも早く詠むことにより」(3点)

○ 「早く詠もうとした・早く詠んだ・早く詠む・詠む早さで」などの意があればよい○。

○ 「すこしでも・歌を」などの意の有無は不問。

B 「和歌の出来の悪さを隠そむとして、早く詠む」(3点)

○ 「和歌の出来の悪さを隠そうとした・歌の質の低さをまかそうとした」の意があればよい。

○ 「出来」は「質・完成度」などでもよい。

- 「悪さ」は「低さ・自信のなさ」などでもよい。
- 「隠そうとした」は「ごまかそうとした・言い訳にしようとした」などでもよい。
- 「隠す(ごまかす・言い訳にする)」に相当する表現がなく、「歌の出来が悪いと思われぬように」の出来が悪いと思われるように・歌の出来の悪さがばれないように、または、「歌の出来の悪さがばれてもよいように」などとなっていないでもよしとする。
- ▲「和歌の」が明らかでない「出来の悪さを隠そうとした」などは、▲マイナス1点。
- ▲「悪さを」が明らかでない「和歌の出来を隠そうとした」などは▲マイナス1点。
- ✕「和歌の出来の悪さを」が明らかでない「恥ずかしさを隠そうとした・歌を詠む遅さをごまかそうとした」などは✕。

Y 6点

(解答例)

A ○3点

B ○3点

木に降り積もった雪が花のようで、 どの枝にも花が咲いているように見えるという事。 (40字)

(6点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 40字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「木に降り積もった雪が花のようで」(3点)

- 「雪が花のようだ・雪が花に見える」の意があればよい○。

B 「どの枝にも花が咲いているように見えるという事」(3点)

- 「どの枝にも花が咲いているように見える・すべての枝に花がさいたようだ」の意があればよい○。

問七 4点

(解答) 二

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a しゅうくに

b しいに

c もりす

d より

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合、▲減点1点。

例 b 「つひに」 c 「まうす」

△送り仮名の不足は△1点。

例 「つぶさ」「しい」「もりす」「より」。

※ d 「よりて」は不可※。

問二 5点×2＝10点

A 5点

A前半

B○1点

C○2点

A○2点

(解答例) あなたは

どうやって

ここに来ることが

できた

のですか (5点)

「採点のポイント」

※「あなたは」は不問。

※丁寧表現は不問。

A 「どうやって」のですか (2点)

○ 手段を問う疑問文になっていれば○。

※ 「なぜ」は※。

B 「ここに来ることが」 (1点)

○ 「ここ」は具体化せずに「ここ」で可。

もし、具体化した場合は、「神仙界」「蓬莱山」などであること。

C 「できた」 (2点)

○ 可能表現であれば○。

B 5点

A ○ 1点

B ○ 1点

C ○ 1点

D ○ 2点

(解答例)

ぜひとも

神仙界の長に

お目にかかる

必要がある (5点)

「採点のポイント」

\* 主体「あなたは」は不問。

\* 丁寧表現は不問。

A 「ぜひとも」(1点)

○ 「ぜひ」などで○。

B 「神仙界の長に」(1点)

○ 「神仙界の長」は具体化せずに「天師」のままでも可。  
もし、具体化した場合は、「神仙界」「蓬莱山」など。

C 「お目にかかる」(1点)

○ 「お目にかかる」は「拝謁する」「謁見する」「まみえる」などで○。  
※敬語なし「会う」は不可※。

D 「必要がある」(2点)

○ 「必要である」「しなくてはいけない」などで○。  
△ 「べきだ」は△1点。

問三 5点

(解答) 遣<sub>下</sub>左<sub>二</sub>右<sub>一</sub>引<sub>二</sub>於<sub>一</sub>宮内<sub>一</sub>遊<sub>一</sub>観<sub>上</sub>

※完答のみ

問四 5点

(解答) いまだ きたら ざる のみ (と)

「採点のポイント」

▲ 「きたら」をカ変動詞「こ」とするものは▲減点1点。

○ 引用の「と」は不問。

▲ 漢字を用いたものは1か所につき▲1点減点。

問五 3点+3点+4点=10点

(i) 3点

(解答) 七言絶句 (3点)

(ii) 3点

(解答) 白楽天院 (3点)

※誤字は0点。

(iii) 4点

(解答) 亦 (4点)

問六 8点

(解答) 二

問七 2点×2=4点

(解答) (i) 八 (ii) 口